



ぶらり相生第7号
平成29年9月

「戦国の相生は、どのような支配だった・・・」

戦国時代は、歴史上人気のある時代で、NHK大河ドラマをみても戦国時代か幕末・明治維新时期を題材にしたものが圧倒的です。時代が大きく変貌していく様は誰しも興味をそそられるからかもしれません。

さて、相生市域は誰によって支配されていたのでしょうか。戦国時代を終焉させる天下布武を唱える織田信長の時代、浦上宗景^{むねかげ}は、天正4（1576）年宇喜多直家に敗れ、事実上滅亡します。赤穂郡一帯の支配も、宇喜多氏の手の中に帰したとみられます。宇喜多直家は、天正7（1579）年毛利方から寝返って織田方につき、赤穂・佐用2郡を安堵されます。天正14（1586）年、尾張国小折村出身の生駒親正^{ちかまさ}に赤穂6万石が与えられ、相生市域もこの中に含まれたものと思われます。その生駒氏は翌年には讃岐国高松6万1千石に転じ、そのあと、赤穂郡は再び宇喜多秀家の所領となります。

ちなみに宇喜多秀家といえは、秀吉の信任厚く、四国平定、九州平定、小田原平定など全てに参戦し、朝鮮の役にも出陣、岡山5万7千石の城主となり、秀吉晩年には五大老の一人として、豊臣政権の重鎮となったことで有名です。しかし、慶長5（1600）年関ヶ原の戦いでは西軍の首脳の一人となって大敗し、八丈島へ配流され、宇喜多氏は断絶することになってしまいます。

この宇喜多氏統治時代の相生市域は、直家の弟忠家に矢野荘のうち那波4カ村、宇喜多氏重臣岡豊前守に上矢野・下矢野が与えられています。この岡豊前守は、市域の下土井城（若狭野町下土井）の城主と伝えられます。岡氏は、矢野荘を本拠に、国人としてしだいに成長し、宇喜多家の重臣となった可能性があります。



歴史の大変動期、この相生にも時代のうねりが押し寄せていたことがわかります。